

令和4年度在宅医療・介護連携推進事業、認知症総合支援事業の実績報告

資料1

目指す姿	事業名	実施内容	評価と課題
<p>① 在宅療養・認知症支援の基盤が整備され、場面に応じた切れ目のないサービスの提供体制が構築される。</p> <p>(日常の療養支援・入退院支援・急変時の対応・看取り)</p>	<p>在宅医療・介護連携、認知症対策推進協議会</p>	<p>【第1回(5/26)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度在宅医療・介護連携推進事業、認知症総合支援事業の実績報告</li> <li>令和3年度認知症初期集中支援チームの実績報告</li> <li>令和4年度在宅医療・介護連携推進事業、認知症総合支援事業実施計画</li> <li>意見交換</li> </ul> <p>「アドバンス・ケア・プランニング(ACP)の取り組みについて」</p> <p>【第2回(10/6)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>認知症初期集中支援チーム上半期活動実績報告</li> <li>在宅医療・介護連携推進事業、認知症施策上半期実績報告</li> <li>多職種連携情報共有システムの運用状況について</li> <li>白井市在宅医療の実態について報告</li> <li>終活支援講座の紹介・体験</li> </ul> <p>【第3回(2/2)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題別ワーキングの取り組み報告</li> <li>在宅医療後方支援制度の実績報告</li> <li>徘徊保護高齢者への対応実績報告</li> <li>認知症初期集中支援チーム事業事例集について</li> <li>次年度の在宅医療・介護連携推進事業、認知症相応支援事業の実施方針について</li> <li>意見交換「認知症高齢者への地域の見守り体制について」</li> </ul>	<p>アドバンス・ケア・プランニング(ACP)や認知症高齢者への見守り体制についてなど意見交換を行えたことは今後の取り組みの参考となった。また、終活支援講座の紹介・体験をしてもらったことで、地域での取り組みを知ってもらえるきっかけができた。</p>
	<p>医療・介護連携ワーキング</p>	<p>【第1回(7/29)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>白井市の高齢化の現状、救急搬送の推移</li> <li>ワーキングのこれまでの取り組みについて</li> <li>令和元年度のアンケート調査結果の振り返り、今後のアンケート調査内容について</li> </ul> <p>【第2回(11/24)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>介護施設における救急医療情報シート等に関わるアンケート調査結果について</li> <li>介護施設での救急時の対応について(DVDの視聴)</li> <li>介護施設での救急時対応の取り組みにおける検討について</li> </ul>	<p>介護施設で救急医療情報シートの活用状況をアンケートを実施し確認した。介護施設での課題を把握し、2月に介護施設従事者向けの急変時対応講習会を実施し、職員のスキルアップの機会と救急医療情報シート周知啓発をすることができた。</p>
	<p>「在宅医療後方支援制度」の運用</p> <p>※平成31年4月より開始、在宅医療を受ける患者が一時的な入院を必要とする状態になった際、事前に登録のある市内3病院のいずれかで受け入れる仕組み</p>	<p>・システムを活用し、登録する方法へ変更した。</p> <p>【利用実績】(令和4年1月～12月末)</p> <p>登録患者数:28名 後方支援体制利用患者数:7名(令和3年:9名)</p>	<p>本制度の利用により、市内で医療が完結できるため在宅医師側だけでなく、患者本人・家族側の負担軽減につながっている。</p> <p>市外訪問診療機関に対しても引き続き、制度の周知に取り組んでいく。</p>

<p>①在宅療養・認知症支援の基盤が整備され、場面に応じた切れ目のないサービスの提供体制が構築される。 （日常の療養支援・入退院支援・急変時の対応・看取り）</p>	<p>「認知症初期集中支援チーム」の活動</p>	<p>【対応実績】 令和4年度 5ケース（令和3年度 14ケース） ※活動実績の詳細、評価および課題については、別紙資料に記載</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内医療機関及び居宅介護支援事業所へ「チーム員活動事例集」を配布。</li> <li>・認知症疾患医療センター連携会議へ参加（2回）</li> </ul>	<p>地域包括支援センターが全委託となったことで、更に各ケース担当の地域包括支援センター職員とチーム員間で連携を図りながら、経験（事例）を積み上げていく必要がある。</p>
	<p>〈認知症本人支援・家族支援の場〉 ①「らくらく介護教室」の開催 ②「お楽しみ処（認知症カフェ）」の開催 ③認知症パートナーによる訪問支援</p>	<p>①保健福祉センター（6/29）参加者：7人 白井駅前センター（10/13）参加者：4人 西白井複合センター（2/17）参加者：3人</p> <p>②西白井お楽しみ処：19回 参加人数：延182人 池の上お楽しみ処：20回 参加人数：延102人</p> <p>③認知症パートナーによる訪問支援（チームオレンジ）：6ケース</p> <p>※認知症状があり、閉じこもりがちの方を対象に「お元気まもり事業」を紹介。地域の見守りパートナーとして認知症パートナーが月2回の定期訪問で交流。</p>	<p>認知症パートナー（認知症サポーター養成講座のステップアップ講座修了者）による、お楽しみ処の運営や訪問活動が当事者や家族にニーズにマッチしており、認知症パートナーの活躍の機会が増えている。 今後も引き続き、担い手の育成と活躍先へのつなぎ支援を強化していく必要がある。</p>
	<p>災害ワーキング</p>	<p>市の関係部署（危機管理課、社会福祉課、障害福祉課、高齢者福祉課、健康課）で意見交換や研修会に参加をし、ワーキングとしては実施しなかった。 危機管理課で管理している避難行動要支援者名簿に記載がある人で市のハザードマップ上の土砂災害計画区域に自宅がある2名にモデル的に個別避難計画作成のため訪問を実施した。</p>	<p>今後も関係部署との情報共有や意見交換を実施し、作成が努力義務となっている個別避難計画について内部で検討を重ねていく。必要に応じて介護支援専門員等と意見交換を行っていく必要がある。</p>
<p>目指す姿</p>	<p>事業名</p>	<p>実施内容</p>	<p>評価と課題</p>
<p>②医療・介護職の顔が見える関係構築が図れる</p>	<p>多職種連携研修会</p>	<p>2/8開催「介護施設従事者向け急変時講習会」 講師：日本医科大学千葉北総病院救急救命センター 小田医師 協力：印西地区消防組合救急救命士5名 参加者：市内介護施設従事者 39名 傍聴者6名 計45名</p>	<p>令和2年度より企画していた講習会が、対面形式の実施により開催することができた。参加者のスキルアップや参加者同士の交流が図れたと評価している。感染対策を取りながら、多職種間の関係づくりにつながる研修を実施する。</p>

目指す姿	事業名	実施内容	評価と課題
<p>③ 医療・介護・行政等関係者の連携ツールが普及し、関係者間で共有される。</p>	<p>救急医療情報キット、介護施設用シートの配布、運用</p>	<p>【救急医療情報キットの配布】 累計：4,683本（平成29年12月～令和5年3月末） 令和4年度：778本</p> <p>【救急要請時における救急医療情報キットの活用】 救急医療情報キット：384件（令和3年度：280件） 介護施設用シート：122件（令和3年度：109件） 65歳以上の救急出動（自宅・介護施設のみ）件数（1480件）に占める情報連携シート（救急医療情報シート・介護施設用シート）の活用率34.2%（令和3年度：32.8%）</p> <p>【キットの普及啓発】 ・キットの周知啓発として、令和3年2月より救急搬送現場にて白井市・印西市共通のリーフレット配布を開始 ・キット周知用動画 YouTube再生53,000回</p>	<p>コロナ禍ではあったが、少しずつ周知啓発の機会を作ることができた。救急現場でのリーフレット配布により、申請者数は増えている。キットの活用件数についても、年々増加傾向となっている。今後も普及に向けた継続的な取り組みが必要となる。</p>
	<p>入退院時連携ルールの運用</p>	<p>コロナ感染症の影響により、市内の医療機関向けの周知は行うことができなかった。</p>	<p>計画に沿った取り組みが出来なかった。ルールの浸透に向けた医療・介護関係者への継続的な働きかけを行う必要がある。来年度の検討課題とする。</p>
	<p>医療と介護の情報連携（ICT検討）ワーキング</p>	<p>第1回（9/1） ・システム運用実績について報告 ・システム運用上の課題について意見交換 ・システム運用の拡大に向けて</p> <p>【その他】 ・多職種連携情報システム（バイタルリンク）活用説明会（6/29）バイタルリンクの未登録者向けに、説明会を実施した。 ・多職種連携情報システム（バイタルリンク）活用体験会（12/16）システムの登録をしているが、活用したことがない事業所向けに体験会を実施した。</p>	<p>多職種連携情報共有システムの基本的な運用ルールを定め、運用することができている。今後は運用上の課題を把握し、スムーズな運用とシステム普及について検討する必要がある。</p>
	<p>徘徊保護高齢者に関する警察との連携体制の構築</p>	<p>警察に保護された徘徊高齢者に関する情報について、家族の同意が得られた場合、市に情報提供があり、支援につながっている。</p> <p>【実績】 36件（令和3年度 8件）</p> <p>【対応】 ①介護認定あり 26件 →ケアマネジャー及び地域包括と情報共有し、支援実施。 ②介護認定なし 10件 →地域包括により実態調査等を実施。</p>	<p>警察からの情報提供から、直接の支援やケアマネジャーへの支援につながっている。今後も、情報提供を受けながら警察、ケアマネジャー、地域包括と連携し、支援を行う。</p>

目指す姿	事業名	実施内容	評価と課題
<p>④ 認知症、在宅医療、在宅看取り等についての普及啓発を行い、市民の理解が進む。</p>	<p>「認知症講演会」の開催</p>	<p>令和4年9月3日(土) 講師:認知症介護研究・研修東京センター 山口晴保氏 参加者:59名</p>	<p>コロナ禍のため、人数制限をして開催した。来年度は別のテーマで講演会を開催するため、日々の周知啓発に努める。</p>
	<p>「終活支援ノート」の配布、「終活支援講座」の開催</p>	<p>【終活支援ノート】 令和元年9月より配布 地域包括支援センター窓口での配布を継続  【なるほど行政講座(終活支援講座)】 ・富士センター主催2回実施 地域団体主催2回実施</p>	<p>終活支援講座をなるほど行政講座メニューとして登録、要望に応じて随時実施していく。</p>
	<p>「認知症周知啓発月間」 「認知症サポーター養成講座」</p>	<p>【認知症周知啓発月間】 ・認知症周知啓発月間中、庁舎外壁に懸垂幕の設置 ・9/1号広報 ・保健福祉センター1階ホールに情報コーナー設置、  【認知症サポーター養成講座】 ・認知症サポーター講座開催:年20回、995人 (小学校:573人、高校生:240人) ・認知症パートナー養成講座(ステップアップ講座) 開催:1回、9人</p>	<p>認知症周知啓発月間を設け、展示や講座を行うことで周知啓発に繋がっている。今後は、地域の企業等に向けたサポーター養成講座を開催していく。</p>
目指す姿	事業名	実施内容	評価と課題
<p>⑤ 在宅医療・介護連携、認知症に関する相談窓口が整備され、市民や医療・介護関係者への相談支援体制が整う。</p>	<p>医療・介護関係者からの在宅医療の相談窓口を地域包括支援センター(市内3か所)に設置</p>	<p>【実績】 医療に関する相談(実件数):188件 内訳) ・医療機関や治療、保健・健康相談 126件 ・精神疾患 31件 ・在宅医療、訪問看護 31件</p>	<p>コロナ禍において、在宅医療のニーズは高まっている。市内外の訪問診療・訪問看護の情報収集を継続し、相談時に活用していく必要がある。</p>
	<p>「認知症ガイドブック」に認知症に関する相談先の情報を掲載</p>	<p>高齢者福祉課、各地域包括支援センター窓口で随時配布</p>	<p>元気なうちから情報が得られるよう、引き続き周知を行う。</p>
	<p>「地域包括支援センター」の周知啓発</p>	<p>コロナ禍であったが、少しずつ地域の集いの場が再開したことで、出向いて周知啓発を行う機会が増えた。各地域包括支援センター職員が、各自、民生委員の定例会に等に出席し、周知に努めた。</p>	<p>今後も地域に出向き、継続して周知啓発に努める。</p>